

令和4年度

一般社団法人 燃料電池開発情報センター 総会
資料

令和4年9月7日（水）

お茶の水ソラシティーカンファレンスセンター



一般社団法人 燃料電池開発情報センター

東京都千代田区神田淡路町一丁目19番地（お茶の水ビジネスビル 1階）

電話 03-6206-0231

令和4年度（一社）燃料電池開発情報センター
定時総会議案 目次

第1号議案 令和3年度事業報告の件

第2号議案 令和4年度事業計画の件

第3号議案 役員選任の件

令和3年度事業報告

自 令和 3年 7 月 1 日
至 令和 4年 6 月30 日

ロシアによるウクライナ侵攻を受け、エネルギー安全保障上の危機が高まっている。日本国内でも電力やガソリンなどのエネルギー価格に加えて、小麦を始めとする食糧価格などの物価上昇が大きな注目を集めている。特にヨーロッパにおいては、陸続きのロシアに由来から化石燃料の輸入を大きく依存して来たため、供給不安が大いに高まっている。FCDICでは、5月のシンポジウムにおいて、ヨーロッパ・アメリカ・中国の燃料電池・水素に関わる最新動向をNEDO様から特別講演頂き、ウクライナ危機の中、ヨーロッパ・アメリカではエネルギー転換に向けた大きな動きがあることが報じられた。ヨーロッパでは水素への急激な加速政策がもたらされており、欧州域外からの調達の動きも加速して、脱化石燃料への転換に向けて強い本気度が感じられた。アメリカにおいても、脱CO2には水素が必須と位置付けられ、大きな投資が計画されている。

今後、FCDICにおいても脱化石燃料に向けた世界的な潮流を受けて、会員ニーズに基づいた燃料電池・水素の情報収集や発信を積極的に行い、燃料電池の更なる普及拡大を目指した研究会など、新たな取り組みを実施していきたい。

以下、1年間の活動報告を記す。

会員数は、正会員、学会会員、海外会員それぞれ入退会による増減があり、全体的には13機関(名)の減少であったが、正会員、学会会員で13機関増加した。

総会、理事会、幹事会、並びに研究会、見学会、講習会、シンポジウム、各種広報出版などの定常的な事業活動は、ほぼ予定通り実施出来たが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、見学会を除く活動はリモート開催やリモートと対面との併催で対応してきた。FCDIC最大の行事である5月のシンポジウムについても、口頭発表については、リモートと対面の併催で実施した。

令和3年度決算については、行事等のリモート開催に伴う会議室使用料や懇親会費用等の削減に伴い、支出が6,142,347円予算額を下回った。その結果、令和3年度の収支差額は3,966,400円の赤字予算に対して、3,797,393円の黒字となった。翌年度繰越収支差額は62,190,885円となった。

以下に令和3年度の各活動の概要を報告する。

I 会員数

	令和2年度末 (令和3年6月30日現在)	令和3年度			令和3年度末 (令和4年6月30日現在)
		入会	退会	増減差	
正会員	99 (97)	7	8	-1	98 (96)
公共会員	2	0	0	0	2
学会会員	77	6	4	2	79
海外会員	8	0	1	-1	7
特別会員	5	0	0	0	5
合計	191 (189)	13	13	0	191 (189)

注1) カッコ内は会費を納めている会員数。相互に団体加入あるいは相互に情報交換等の契約で、正会員2機関が会費免除。

注2) 海外会員の会員期間は毎年1月～12月。

II 活動状況

1 開催行事

1.1 研究会の開催

下記3回の講演会、2回の見学会を実施した。

- ① 第161回研究会(講演会): 令和3年9月8日(水)、総会・理事会・名刺交換会と併催

第1号議案

- ・開催方法：Zoom ウェビナーによるリモート講演会（当初はソラシティーカンファレンスセンターでの対面開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大状況により、リモート開催に変更）
 - ・講演：「パナソニックにおける PCFC の開発状況」 パナソニック 黒羽氏
「NEDO における燃料電池・水素の開発状況」 NEDO 大平氏
- ② 第162回研究会（見学会）：令和3年10月20日（水）13:00：集合、参加者数：30名
- ・見学場所：東京オリンピック跡地のENEOS水素ステーション、パナソニックセンター東京（有明）
- ③ 第163回研究会（講演会）：令和4年1月25日（火）、理事会・名刺交換会と併催
- ・場所：ソラシティーカンファレンスセンター（対面で実施）
 - ・講演：「水素大競争時代を勝ち抜く日本の戦略」京都大学 橋本道雄 先生
「水素社会の実現に向けた取組について」自民党 水素社会推進議員連盟副会長 渡辺博道 議員
「ご同席」 自民党 水素社会推進議員連盟事務局長 工藤彰三 議員
- ④ 第164回研究会（見学会）：令和4年6月16日（木）9:00～15:00（集合・解散：新幹線徳山駅）
- ・参加者数：29名（満席、15名程度のキャンセル待ち）。
 - ・（株）トクヤマ：食塩電解槽・燃料電池・液化水素プラント見学
周南市：地方卸売市場の水素学習室にて説明および見学、水素ステーション見学
 - ・当初は令和4年3月9日（水）を予定していたが、山口県にまん延防止等重点措置が発令中であったため延期し、令和4年6月16日（木）に実施した。

1.2 セミナー・講習会の実施

下記のセミナーおよび講習会を実施した。

- ① 第37回セミナー：令和3年11月17日（水）10:00～17:00：船堀2F、ハイブリッド開催
参加者：約170名
<プログラム>
- 「カーボンニュートラル時代における水素政策の今後の方向性」 経済産業省 藤岡 亮介 氏
 - 「水電解技術の展望とその基盤技術」 横浜国立大学 光島 重徳 先生
 - 「日本における固体高分子形水電解の技術開発史」 元産業技術総合研究所 竹中 啓恭 氏
 - 「トクヤマにおける水電解の開発状況」 (株)トクヤマ 宮崎 幸二郎 氏
 - 「AGCにおけるPEM形水電解用イオン交換膜開発状況」 AGC(株) 角倉 康介 氏
 - 「高温水蒸気電解法による高効率水素製造システム開発の現状」 東芝エネルギーシステムズ(株) 犬塚 理子 氏
 - 「脱炭素に貢献する水素キャリアの展望」 (一財)エネルギー総合工学研究所 石本 祐樹 氏
- ② 第32回寺子屋式講習会 令和3年12月8日（水）10:00～17:00、参加者：19名
- ・場所：連合会館、組立でも実施予定
 - ・講師：概要（FCDIC羽藤）、PEFC基礎（横国大 石原先生）、SOFC基礎（産総研 石山氏）、燃料電池に関する特許の重要性（特許庁 太田氏）
- ③ 第33回寺子屋式講習会：令和4年6月8日（水）13:00～17:00
- ・場所：連合会館での対面とリモートとのハイブリッド
 - ・参加申し込み：42名（会場：9名）
 - ・講師：PEFC基礎（横国大 石原先生）、SOFC基礎（産総研 石山氏）、概況（FCDIC 羽藤）

1.3 燃料電池シンポジウムの開催

FCDIC主催の第29回燃料電池シンポジウムは令和4年5月26日（木）～27日（金）にタワーホール船堀会場で開催した。口頭発表については、会場での対面とリモートの併催で実施した。ポスター発表と、企業展示については会場のみでの開催とした。また、飲食を伴う交流会は行わず、名刺交換会を実施した。参加者総数は、約350名であった。

ポスター発表については、学生の発表について優秀ポスター賞の選考を実施した。シンポジウム委員による10名の委員で選考し、5名の優秀ポスター賞を選定して、FCDICのホームページ、燃料電池機関誌春号（4月30日発行）にて告知を行い、機関誌の投稿論文に招待することとした。

第1号議案

1.4 交流会、賀詞交換会の開催

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、令和3年度の交流会、賀詞交歓会等は実施できなかったが、代替として飲食を伴わない名刺交換会、情報交換会を実施し、会員相互の懇親、情報交換を図った。

2 広報・出版

2.1 機関誌「燃料電池」の発行

機関紙「燃料電池」を季毎に4回発行して配布し、その時々燃料電池の最新技術を会員に紹介した。以下に各号の特集および頁数を記す。

- ・「燃料電池」夏号 Vol. 21 No. 1、2021 特集「移動体に利用される燃料電池」103 頁
- ・「燃料電池」秋号 Vol. 21 No. 2、2021 特集「パリ協定における燃料電池の役割」86 頁
- ・「燃料電池」冬号 Vol. 21 No. 3、2022 特集「燃料電池の分析、解析 I」101 頁
- ・「燃料電池」春号 Vol. 21 No. 4、2022 特集「燃料電池の分析、解析 II」98 頁

2.2 「FCDIC Report」の発行

海外会員には「FCDIC Report」を隔月にメール配信を行った。

2.3 年報の発行

2021 年度版年報「日本における燃料電池の開発」（197 頁）を和文と英文で一冊に集約して発行した。内容は、日本の燃料電池開発状況概観、燃料電池における国家プロジェクトの現状、各業界・特別会員・公共会員の活動状況、各機関の開発・活動状況の他、会員の発表論文一覧、FCDIC の主な活動、FCDIC 会員名簿、および国際標準化、水素ステーション情報、燃料電池用語集からなる資料編で構成した。発行は WEB サイトから PDF をダウンロードする形式である。CD 版による外販も行っている。

2.4 FCDIC ウェブサイト

燃料電池に関連する燃料電池シンポジウム、セミナー、機関誌、FCDIC Report、研究会、関連情報、関連データ、WEB情報などを適宜項目毎に分割して情報を発信している。

2.5 展示会出展

FC EXPO 2021秋と2022春において、ブースにて展示を行い、FCDIC の活動を広く一般に広報した。

3 50年後の燃料電池を考えるWG活動

本格普及に向けて開発が進められている燃料電池の将来あるべき姿・期待を議論しまとめる WG を組織し活動しており、昨年の第28回燃料電池シンポジウムでは、機関誌に寄稿頂いた各種燃料電池の現状と展望を纏めてパネルディスカッションを実施した。これを踏まえて、今後50年後の燃料電池WGの進め方を継続検討している。具体的には、WGの名称変更やメンバー変更に加え、PEFCにおいて理論起電圧が出ない問題、非白金触媒や高温運転等の重要と思われる課題にテーマを絞り、どこまでメカニズムが分かっており、何が分かってなくて、何が課題か等を纏めていく方向で進めることについて、コロナが落ち着いてから対面でWGを開催し議論する方針である。

4 共催・協賛・後援

以下に承認した共催・協賛・後援行事を列挙する。

共催

「FC EXPO 秋 2022」 「FC EXPO 春 2023」

主催：RX Japan 株式会社

開催日：2022年8月31日（水）～9月2日（金）【FC EXPO 秋 2022】

第1号議案

2023年3月15日(水)～3月17日(金) 【FC EXPO 春 2023】

場所：幕張メッセ (FC EXPO 秋 2022)、東京ビッグサイト (FC EXPO 春 2023)

依頼：前菌 雄飛 (RX Japan (株) FC EXPO 事務局長)

協賛

第57回学際領域セミナー 全固体電池研究の最前線

主催：公益社団法人電気化学会 関東支部

開催日：2021年9月7日(火)

場所：オンライン (ライブ配信 Zoom ウェビナー)

2021 合同 WEB 討論会 (第41回水素エネルギー協会大会 (HESS 大会)、

2021HESS 特別講演会、第45回電解技術討論会-ソーダ工業技術討論会-)

主催：一般社団法人水素エネルギー協会、公益社団法人電気化学会 電解科学技術委員会

開催日：2021年11月29日(月)～11月30日(火) 第41回水素エネルギー協会大会

2021年12月1日(水) 2021HESS 特別講演会

2021年12月9日(木)～12月10日(金) 第45回電解技術討論会-ソーダ工業技術討論会-

場所：オンライン (第41回水素エネルギー協会大会、2021HESS 特別講演会は対面でも開催予定)

第30回 SOFC 研究発表会

主催：SOFC 研究会

開催日：2021年12月16日(木)～12月17日(金)

場所：WEB 開催・オンライン研究発表会

エネルギー技術対策委員会 2021年度 主催講演会

「日本における将来のエネルギーのあり方～カーボンニュートラルに向けたグリーンイノベーション～」

主催：一般財団法人大阪科学技術センター エネルギー技術対策委員会

開催日：2022年1月12日(水)

場所：大阪科学技術センター4階401号室およびオンライン開催 (zoom)

固体酸化物エネルギー変換先端技術コンソーシアム 第二期 (ASEC-2) 公開シンポジウム 2022

主催：国立研究開発法人産業技術総合研究所

固体酸化物エネルギー変換先端技術コンソーシアム第二期 (ASEC-2)

開催日：2022年1月28日(金)

場所：Web によるオンライン講演会 (Microsoft Teams もしくは Cisco Webex によるライブ配信、
On-line Meeting with Teams or Webex)

燃料電池・FCH部会 2021年度公開シンポジウム

主催：一般財団法人大阪科学技術センター 燃料電池・FCH部会

開催日：2022年1月31日(月)

場所：大阪科学技術センター 4階401号室およびオンライン開催 (Zoom)

1から学ぶ電気化学のいろは(原理からアプリケーションまで)

主催：公益社団法人電気化学会 関東支部

開催日：2022年5月14日(土)～5月29日(日)

場所：オンライン (オンデマンド配信)

日本セラミックス協会 第35回秋季シンポジウム特定セッション

「エネルギー変換・貯蔵・輸送セラミックス材料の基礎と応用」

主催：公益社団法人日本セラミックス協会

第1号議案

開催日：2022年9月14日（水）～9月16日（金）

場所：徳島大学常三島キャンパス（予定）

第63回電池討論会

主催：公益社団法人電気化学会 電池技術委員会

開催日：2022年11月8日（木）～11月10日（木）

場所：福岡国際会議場 福岡サンパレス会

第38回ニューメンブレンテクノロジーシンポジウム2022

主催：一般社団法人日本膜学会、一般社団法人日本能率協会

開催日：2022年11月21日（月）～11月25日（金）

場所：オンライン配信（Zoom）

グラント再生可能エネルギー2022 国際会議

主催：Grand RE2022 組織委員会

開催日：2022年12月13日（火）～12月20日（火）土日を除く6日間

場所：オンラインで実施（Zoom Webinar 使用）

後援

九州水素・燃料電池フォーラム & 水素先端世界フォーラム2022

主催：九州大学水素材料先端科学研究センター、九州大学エネルギー研究教育機構、
九州大学水素エネルギー国際研究センター、経済産業省九州経済産業局、
福岡水素エネルギー戦略会議、九州経済連合会

開催日：2022年1月27日（木）～1月28日（金）

場所：【1月27日】オンライン youtubelive 配信

（九州水素・燃料電池フォーラム&水素先端世界フォーラム2022）

【1月27日～28日】オンラインと一部九州大学でのハイブリッド開催

（水素材料先端科学研究センター研究シンポジウム）

課題解決 EXPO2022 エコテクノ 2022

～地球環境ソリューション展/エネルギー先端技術展～（第27回）～

主催：福岡県、北九州市、公益財団法人北九州観光コンベンション協会

開催日：2022年7月6日（水）～7月8日（金）

場所：西日本総合展示場 新館

協力

第5回 FC-Cubic オープンシンポジウム

主催：技術研究組合 F C - C u b i c

開催日：2021年8月20日（金）

場所：Web 開催（Webex 及び YouTube ストリーミング）

Hydrogen in the Energy System Decarbonization

主催：IEA EGRD

開催日：2021年11月24日（水）

場所：オンライン（Webinar）

第1号議案

GREEN METALS & HYDROGEN The Pivot to a Cooler Planet
(グリーンメタル&水素 より涼しい地球のためのかなめ)

主催：SFA Oxford

開催日：2021年11月26日（金）

場所：オンライン（Youtube live）

第6回 FC-Cubic オープンシンポジウム

主催：技術研究組合FC-Cubic

開催日：2021年12月10日（金）

場所：Web開催（Webex 及び YouTube ストリーミング）

JST 未来社会創造事業「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域
令和3年度公開成果報告会「蓄電池・燃料電池関連の課題」

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

開催日：2022年3月9日（水）

場所：Zoom ウェビナー

2022年日中炭素・汚染排出削減と水素エネルギー開発セミナー

主催：海南省再生可能エネルギー協会、一般社団法人海外環境協力センター、
PGO 水素エネルギー・燃料電池産業研究院、海南師範大学、海南大学

開催日：2022年3月9日（水）

場所：国瑞大厦B座西塔（中華人民共和国 海南省）およびZoom ウェビナー

SOFC/ SOEC 課題共有フォーラム

主催：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構、燃料電池実用化推進協議会

開催日：2022年3月23日（水）

場所：ベルサール八重洲およびオンライン配信のハイブリッド開催

公益信託 ENEOS 水素基金 2022 年度

募集元：三井住友信託銀行

応募締切日：2022年5月10日（火）必着

第8回 FC-Cubic オープンシンポジウム

主催：技術研究組合FC-Cubic

開催日：2022年7月13日（水）

場所：Web開催（Webex 及び YouTube ストリーミング）

5 顕彰制度

産業貢献賞、学術賞および奨励賞について、令和3年7月～8月に募集を行った。選考委員会での審議結果に基づき、幹事会および理事会で了承が得られ、受賞者は以下の通りとなった。第29回燃料電池シンポジウムにおいて、表彰式および受賞記念講演を実施した。

1. 産業貢献賞

- 業績題目：「普及を目指した新型 MIRAI に搭載された FC システムの開発」
受賞機関：トヨタ自動車（正会員）
- 業績題目：「燃料電池用高性能フッ素系電解質ポリマーの開発」
受賞機関：AGC（正会員）

第1号議案

Ⅲ 決算の概要

令和3年度については、会費収入はほぼ維持するとともに、シンポジウム等のイベントの参加費収入はほぼ例年通りの目標値を設定して積み上げた結果、予算収入を33,097,600円とした。一方、支出については引き続き活発な活動を維持することとして、前年度の予算をベースに検討を行い、37,064,000円とし、3,966,400円の赤字予算とした。

以下、実績について説明する。

まず収入については、会費収入はほぼ予算通りであったが、イベント等の参加費収入については、シンポジウムの懇親会を中止し名刺交換会としたため、懇親会費の収入が無くなり、シンポジウム費が減収となった。一方で、セミナー・寺子屋式講習会等の講習会参加費については、セミナーが盛況であったため増収となった。また、東京都のテレワーク助成金や月次支援金・事業復活支援金の申請を実施し給付金を支給頂いたため、雑収入が増収となった。その結果、令和3年度の収入予算額33,097,600円に対し、収入の決算額が34,719,046円となり、収入については令和3年度予算額に対し、1,621,446円の増収となった。

一方、支出については、シンポジウムやセミナー、各委員会等のほとんどを対面とリモートのハイブリッド開催とし懇親会を中止したため、会議・会場費および渉外費が減少となった。また、シンポジウム等の予稿集をpdf配信としたこと、委員会を対面とリモートのハイブリッド開催としたことにより、印刷製本代、旅費交通費等全体的に削減に努めた。その結果、令和3年度の支出予算額37,064,000円に対し、決算支出合計は、予算より6,142,347円少ない30,921,653円となった。

以上の結果、令和3年度3,966,400円の赤字予算額に対し、決算額は3,797,393円の黒字となった。この結果、翌年度繰越収支差額は62,190,885円となった。

令和3年度決算案を別紙に示す。

令和3年度決算報告書

自 令和3年7月 1日

至 令和4年6月30日

正味財産増減計算書

(単位:円)

項 目	令和3年度予算額	決算額	備 考
正味財産増減の部			
収益			
1. 会費	23,416,000	23,502,000	
(1)正会員会費	22,080,000	22,300,000	会員数98
(2)公共会員会費	240,000	210,000	会員数2
(3)海外会員会費	480,000	360,000	会員数7
(4)学術会員会費	616,000	632,000	会員数79
2. シンポジウム費	4,900,000	3,642,600	シンポジウム参加費、展示会費等
3. 講習会参加費	1,800,000	2,884,000	セミナー、寺子屋参加費
4. 資料頒布	80,000	23,100	講習会テキスト、年報等
5. 機関誌頒布	700,000	1,026,010	「燃料電池」誌頒布、広告掲載収入
6. 雑収入	2,201,600	3,641,336	預金利子、共催協力金、給付金等
本年度収益計(A)	33,097,600	34,719,046	

(単位:円)

項 目	令和3年度予算額	決算額	備 考
費用			
1. 会議・会場費	4,435,000	2,344,040	セミナー・講習会・シンポジウム・各委員会 会場費他
2. 印刷製本代	2,570,000	1,916,657	機関誌、年報、予稿集他
3. 渉外費	1,450,000	129,929	シンポジウム名刺交換会費
4. 旅費交通費	1,290,000	724,675	委員会委員旅費、情報調査旅費、 学会・研究会参加旅費、職員通勤費他
5. 外注費	3,270,000	1,296,940	翻訳、シンポジウムWEB申込サイト構築
6. 諸謝金	1,871,000	1,657,245	機関誌原稿料、講習会講師謝礼、 税理士謝礼
7. 諸会費	350,000	184,025	学会参加費、各種団体加入会費他
8. 新聞図書費	80,000	2,720	書籍代他
9. 事務用品費	144,000	100,869	複写代、事務用品
10. 消耗品費	100,000	96,391	消耗品
11. 通信運搬費	800,000	607,627	郵送代、電話料、Web管理費、 メールボックス使用料他
12. 支払手数料	308,000	391,184	振込手数料、保守料金、PayPal手数料他
13. 給料手当・賞与	12,100,000	12,522,891	職員給与・賞与
14. 臨時賃金	270,000	145,316	アルバイト雇用代
15. 法定福利費	1,440,000	1,308,219	社会保険料
16. 公租公課	300,000	302,400	法人税、消費税、印紙代
17. 福利厚生費	75,000	52,670	健康診断補助他
18. 借室費	3,609,000	3,607,577	家賃、更新料
19. 光熱費	270,000	214,781	水道光熱費
20. リース費	852,000	850,800	複合機、セキュリティーサーバー他
21. 賃借料	230,000	61,500	バスチャーター代、レンタルPC代
22. 事務所整備費	750,000	1,995,677	Zoom導入費用、PC購入、什器備品他
23.退職金	0	0	退職慰労金
24. 雑費	400,000	407,520	部屋清掃費、ごみ処理券、火災保険他
25. 予備費	100,000	0	
本年度費用計(B)	37,064,000	30,921,653	
本年度収支差額(A)-(B)	-3,966,400	3,797,393	
前年度正味財産額(C)	58,393,492	58,393,492	
翌年度繰越正味財産期末残高 (A)-(B)+(C)	54,427,092	62,190,885	

財産目録

令和4年6月30日現在

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
資産の部		
【流動資産】		
現金	69,002	手元現金
預 金	65,041,889	
(内 訳)		
みずほ銀行 神田支店	9,136,274	普通 主預金通帳
同 上	21,031,604	普通 燃料電池シンポジウム用通帳
同 上	11,553,534	普通 燃料電池講習会用通帳
同 上	10,000,000	定期 預金
三井住友銀行 神田支店	3,054,725	普通 会費振込用通帳
同 上	10,000,000	定期 預金
PayPal	265,752	決済サービス 海外取引用
未収入金	502,000	シンポジウム参加費、寺子屋参加費、機関誌広告料他
前払費用	845,727	総会等会場費他
【固定資産】		
敷 金	2,000,000	事務所敷金
電話加入権	216,000	事務所電話 03-6206-0231 ファクシミリ 03-6206-0232
合 計	68,674,618	
負債の部		
前受金	6,000,000	令和4年度会費前受金
源泉税預り金	208,632	源泉所得税預り金
住民税預り金	22,900	住民税預り金
未払費用	252,201	会場費、事務用品購入費等
合 計	6,483,733	
差引正味財産	62,190,885	

貸借対照表

令和4年6月30日現在

(単位:円)

資産の部		負債および正味財産の部	
項目	金額	項目	金額
【流動資産】	66,458,618	【流動負債】	6,483,733
現金	69,002	前受金	6,000,000
普通預金	45,041,889	源泉税預り金	208,632
定期預金	20,000,000	住民税預り金	22,900
未収入金	502,000	未払費用	252,201
前払費用	845,727		
【固定資産】	2,216,000	【正味財産】	62,190,885
敷金	2,000,000		
電話加入権	216,000	(内当期正味財産増加額)	62,190,885
合計	68,674,618	合計	68,674,618

令和3年度事業報告・決算報告に関する監事の意見

令和3年度事業報告・決算報告について監査した結果、
適法かつ妥当であることを認めます。

令和4年7月26日

監事 神谷 信行

監事 小関 和雄

監事 横川 晴美

令和4年度事業計画の件

自 令和4年 7 月 1 日

至 令和5年 6 月30 日

本年3月には、NEDOから「HDV用燃料電池ロードマップ」が発表された。世界中で水素・燃料電池関連の技術開発および社会実装に向けた取組が大きく加速している中、大型トラックやバス、船舶、鉄道等、移動体用燃料電池の多用途展開と、より大型の移動体用として燃料電池への期待が高まっている。HDV用途としては、従来の乗用車等と比べて、より高い耐久性、作動温度の高温化、より長い航続距離や搭載性、コスト削減等が求められており、その目標達成のためには、従来にない非連続な技術開発も求められている。

トップランナーである日本の燃料電池産業が、今後も継続的に成長できるよう、FCDICにおいては世界の最先端の燃料電池・水素分野の動向をタイムリーに発信して行けるよう、引き続き取り組みを実施していきたい。

今年度の活動の主なものは次のとおりである。

I 活動計画

1 開催行事

1.1 総会・交流会、賀詞交歓会

令和4年度総会を令和4年9月7日（水）に、賀詞交歓会を令和5年1月24日（火）に開催する。総会時には交流会を催し、賀詞交歓会と共に会員相互の親睦を図る場とする。

1.2 第30回燃料電池シンポジウム

令和5年5月25日（木）、26日（金）に開催の予定である。

1.3 研究会

講演会を年2回、見学会を年2回程度予定している。講演テーマ、見学場所等の選定は会員の要望を踏まえ、企画委員会にて検討していく。

1.4 セミナー・講習会

昨年好評を頂いた、水電解・水素のテーマに加えて、HDV戦略等に関するセミナーを本年11月16日（水）に開催する。初心者向け講習会(寺子屋式講習会)については、年 2回を予定している。

2 広報・出版

2.1 機関誌「燃料電池」の発行

燃料電池に特化した学術雑誌（年4回発行）として、内外の動向に応える内容で発行を継続する。機関誌の会員向け配布については、PDF版として発行する。

2.2 2022年度版年報「日本における燃料電池の開発」の発行

日本における燃料電池の開発状況を、和文と英文で一冊に集約してPDF版として発行する。

2.3 「FCDIC Report」の発行 海外会員向けの情報として、「FCDIC Report」の発行を継続する。

2.4 ウェブサイトの充実

機関誌や年報のPDF版のダウンロード、シンポジウムやセミナー等の講演会の予稿のダウンロード等、FCDICのホームページに会員専用サイトを設け、タイムリーな情報発信の方法として今年度も見直しを実施する。

第2号議案

3 海外調査

重要度の高い国際会議に出席し、燃料電池関連情報を機関誌等に報告する。

4 共催・協賛・後援

令和4年8月31日（水）～9月2日（金）、令和5年3月15日（水）～17日（金）と、東京で2回開催予定の国際水素・燃料電池展(FC EXPO)に共催機関として参加すると共に、展示ブースにおいてFCDICの活動を展示し広報する。その他の共催・協賛・後援についても、幹事会の承認の下、積極的に引き受ける。

5 50年後の燃料電池を考えるWG

本格普及に向けて引き続き開発が進められている燃料電池の将来あるべき姿・期待を議論しまとめるWGの進め方を継続検討する。例えば、具体的な切り口を明確にしたうえで理想的な燃料電池について議論する（理論起電圧、高温作動、非貴金属触媒など）。また、グリーン水素研究会との連携の仕方を検討する。

6 グリーン水素研究会

コロナ禍の影響もあり昨年度中の開始ができなかった。活動報告の内容と方法を検討した上で、50年後FCWGとの連携の仕方を含めて進め方を検討する。

7 顕彰制度

産業貢献賞、学術賞ならびに奨励賞の募集を7月～8月に行う。表彰式は第30回燃料電池シンポジウムでの挙行を予定している。

II 予算の概要

再生可能エネルギーをベースとする水素エネルギーシステムの構築に向けた動きは世界的な潮流になりつつあり、ウクライナ問題を受けて、特にヨーロッパ、アメリカにおいては、その動きがより急激に加速しつつある。今後は内外の水素・燃料電池普及に向けた活動は更に活発化するものと期待される。FCDICとしても、今後水素分野に関わる情報発信により積極的に取り組んでいきたい。

本年度は昨年度と同等レベルの97社の正会員数でスタートする。今年度は、例年並みの会員数やシンポジウム・セミナー等への参加者を期待して収入予算を積み上げ、34,086,500円の収入予算を組んだ。一方、支出については引き続き活発な活動を維持することと、遠隔地の会員サービスの充実を目指して、今後も対面とリモートの併用での情報発信を進めるための外注費と事務所整備費を計上し、前年度の予算をベースに検討を行い、総額 36,684,000円とし、2,597,500円の赤字予算とした。

令和4年度予算を別紙に示す。

令和4年度予算

自 令和4年7月 1日
至 令和5年6月30日

収支予算書

(単位:円)

項 目	令和4年度予算額	令和3年度予算額	令和3年度決算額	備 考
収入				
1. 会費	24,436,000	23,416,000	23,502,000	
(1)正会員会費	23,280,000	22,080,000	22,300,000	会員数97+途中入会
(2)公共会員会費	120,000	240,000	210,000	会員数1
(3)海外会員会費	420,000	480,000	360,000	会員数7
(4)学術会員会費	616,000	616,000	632,000	会員数74+途中入会
2. シンポジウム費	4,000,000	4,900,000	3,642,600	参加費、交流会費、展示会出展費等
3. 講習会参加費	2,600,000	1,800,000	2,884,000	セミナー、寺子屋参加費等
4. 資料頒布	50,000	80,000	23,100	講習会テキスト、年報等
5. 機関誌頒布	800,000	700,000	1,026,010	「燃料電池」誌頒布、広告掲載収入
6. 雑収入	2,200,500	2,201,600	3,641,336	預金利子、講習会教材販売、共催協力金等
本年度収入合計(A)	34,086,500	33,097,600	34,719,046	

令和4年度予算

(単位:円)

項 目	令和4年度予算額	令和3年度予算額	令和3年度決算額	備 考
支出				
1. 会議・会場費	3,380,000	4,435,000	2,344,040	セミナー・講習会・シンポジウム・各委員会 会場費他
2. 印刷製本代	2,300,000	2,570,000	1,916,657	機関誌、年報、予稿集他
3. 渉外費	2,050,000	1,450,000	129,929	賀詞交歓会費・シンポジウム交流会費
4. 旅費交通費	1,357,000	1,290,000	724,675	委員会委員旅費、情報調査旅費、 学会・研究会参加旅費、職員通勤費他
5. 外注費	3,420,000	3,270,000	1,296,940	翻訳、ウェブサイト構築他
6. 諸謝金	1,870,000	1,871,000	1,657,245	機関誌原稿料、講習会講師謝礼、 税理士謝礼
7. 諸会費	310,000	350,000	184,025	学会参加費、各種団体加入会費他
8. 新聞図書費	60,000	80,000	2,720	書籍代他
9. 事務用品費	144,000	144,000	100,869	複写代、事務用品
10. 消耗品費	100,000	100,000	96,391	消耗品
11. 通信運搬費	710,000	800,000	607,627	郵送代、電話料、Web管理費、 メールボックス使用料他
12. 支払手数料	400,000	308,000	391,184	振込手数料、保守料金、PayPal手数料他
13. 給料手当・賞与	12,350,000	12,100,000	12,522,891	職員給与
14. 臨時賃金	200,000	270,000	145,316	アルバイト雇用代
15. 法定福利費	1,520,000	1,440,000	1,308,219	社会保険料
16. 公租公課	100,000	300,000	302,400	法人税、消費税、印紙代
17. 福利厚生費	75,000	75,000	52,670	健康診断補助他
18. 借室費	4,116,000	3,609,000	3,607,577	家賃、更新料
19. 光熱費	240,000	270,000	214,781	水道光熱費
20. リース費	852,000	852,000	850,800	複合機、セキュリティーサーバー、リモートサーバー他
21. 賃借料	230,000	230,000	61,500	バスチャーター代他
22. 事務所整備費	400,000	750,000	1,995,677	Zoom導入費用、什器備品他
23.退職金	0	0	0	退職慰労金
24. 雑費	400,000	400,000	407,520	部屋清掃費、ごみ処理券、火災保険他
25. 予備費	100,000	100,000	0	
本年度支出合計(B)	36,684,000	37,064,000	30,921,653	
本年度収支差額(A)-(B)	-2,597,500	-3,966,400	3,797,393	
前年度繰越収支額(C)	62,190,885	58,393,492	58,393,492	
翌年度繰越収支額 (A)-(B)+(C)	59,593,385	54,427,092	62,190,885	

令和4年度 役員選任の件

I 役員

理事	太田 健一郎	横浜国立大学	(代表候補)
理事	佐藤 徳寿	東芝エネルギーシステムズ (株)	(副代表候補)
理事	三浦 一郎	(一社) 日本ガス協会	(副代表候補)
理事	羽藤 一仁	(一社) 燃料電池開発情報センター	(常任理事候補)
理事	佐藤 康司	ENEOS (株)	
理事	原 達範	大阪ガスマーケティング (株)	
理事	辰巳 国昭	(国研) 産業技術総合研究所	
理事	石田 政義	筑波大学	
理事	麦倉 良啓	(一財) 電力中央研究所	
理事	門 正之	東京ガス (株)	
理事	佐野 誠治	トヨタ自動車 (株)	
理事	梅田 実	長岡技術科学大学	
理事	白石 誠吾	パナソニックホールディングス (株)	
新理事	高野 純	(株) 本田技術研究所	
新理事	小林 由則	三菱重工業 (株)	
監事	神谷 信行	横浜国立大学	
監事	小関 和雄	元FCDIC 常任理事・前顧問	
監事	横川 晴美	東京大学 シニア協力員	

II 顧問

片岡 宏文 元東京ガス副社長・前 FCDIC 代表
本間 琢也 筑波大学名誉教授・元 FCDIC 常任理事